

農工商經濟論

工業篇上卷
永田健助譯

三

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄 番號	第	號
門		部
講論集		目次
全 1 冊 / 內第 1 冊		分
分類 番號	第	號
604.0		

校學	部	同	系
番	2		
號	3		
5 冊 / 內			

T1A1
67
N 23



永田健助譯述

第二帙 工業篇

農工商經濟論

明治壬午冬十一月

思誠館開鐫

農工商經濟論 工業篇目錄

第十回 人間及ヒ勤勞

- 工業ノ類別 ○諸工業ヲ集聚スルヲ ○勤勞ノ分科 ○工藝教育 ○智心ノ本分 ○工業上ニ於ル技藝及ヒ學術 ○工業上ノ發明創成ノ所有權

中卷

第二回 財本

- 財本ノ素性 ○財本ノ使用 ○財本ヲ更新スルヲ ○財本ノ本分 ○生産財本及ヒ不生産財本 ○不動財本 ○器機 ○流通財本 ○財本ノ結合

第三回 勤勞ト財本トノ關係

工業篇目錄

思誠館開鐫

○財本ノ利潤○利子ノ價○起業者ノ利益○勞銀○勞銀ノ相場○勞銀ノ貯蓄○勞銀ノ説明○職工協同會

下卷

第四回 勤勞ノ沿革及ヒ制度

○奴隸ノ勤勞○百工協同會○佛國ノ百工協同會○勤勞ノ自由○勤勞自由ノ利益○工業上ノ競争○商律○失敗及ヒ倒行○商法裁判所○業主ト傭人トノ關係○戶籍簿○傭工同黨○コンセルバティブリウドム○商法會議所○百工製造會議所

農工商經濟論工業篇目錄終

禮學枝 經濟論卷之三

工業篇上卷

東京 永田健助 譯述

第一回

人間及ヒ勤勞

○工業ノ類別 凡ソ人生百般需用ノ物品ハ天生ノ物質ヲ取り而シテ之ニ自己ノ勤勞ヲ加ヘ以テ産出シタルモノナリ總テ有益ノ勤勞ハ其種類ノ如何ヲ問ハス之ヲ通稱シテ工業ト云フ是レ即チ百般ノ需用物ヲ産出スルカ為ニ適用

スル人生ノ活動カヲ謂フナリ

蓋シ此活動カラ用フル方法ニ三アリ第一抽出法或ハ耕作法ニ由テ水陸中ヨリ養生物及ヒ其他諸種ノ物料ヲ採收スルヲ農業及ヒ抽出工業ト謂ヒ第二此物料ニ種々ノ化成法及ヒ人巧ヲ加ヘテ各自ノ需用ニ適ハシムルヲ製造工業即チ工業ト謂ヒ吾人往々之ニ抽出工業ヲ附加スルヲアリ第三此天然物及ヒ製造品ヲ最モ高價ニ販賣スルヲ得ヘキ地方ニ運輸シ且之ヲ保存シ以テ交易賣買スルヲ商賣上ノ工業即チ

商業ト謂フナリ

今此篇ニ於テ通論スル所ハ第二法即チ工業ナリ蓋シ吾人ノ日夜勤勞スル所以ノモノハ他ナシ皆自己ノ需求ヲ達セントスルニ外ナラス故ニ其勤勞ヲシテ此需求ノ性質ト其種類トニ適用セシム且夫レ概シテ工業ト稱スレハ百般無數ノ工事ヲ含有スルヲ以テ之カ叙次ヲ立テ、類別セント欲セハ尚其中ニ於テ需求ノ法則ヲ探究セザルベカラズ凡ソ吾人ノ達セント欲スル所ノモノハ身體ト

工製造ノ工巧ヲ待タスシテ食料ニ充ツルヲ得
可ケレハナリ
凡ソ身體ノ需求ニ充ツヘキ物品ヲ製作スルニ
ハ其資料ニ加フルニ一回若クハ數回ノ手數ヲ
以スルヲ往々コレアリ之カ為ニ諸道具ハ勿論
殆ト常ニ器械及ヒ化學ノカヲ藉ラサルヲ得ス
凡ソ工業ハ愈盛大ナルニ隨ヒ愈道具及ヒ器械
ノ數ヲ増シ且其裝置ノ整頓ヲ精細ナラシムル
ヲ要スルノミナラス亦愈此ニ化學カヲ適用ス
ルニ至ル尚從テ貨物ノ産出ヲ容易ニシ且之カ

長三工業篇 三 思成官義反

為ニ作為セル特別ナル工業ノ科目アリ吾人之ヲ名テ豫備工業ト云フ又之ヲ分テ二科トス即チ器械工業及ヒ化學工業是ナリ此類別ハ他ノ事物ト一般ニ其區域ヲ別ツテ判然明白ナルヲ得ス何トナレハ凡ソ工業中ニハ概シテ許多ノ目的ニ適用スルモノアルノミナラス人生ノ需求ト其心身ヲ活動セシムル方法トヲシテ嚴然踰越スベカラサル區域中ニ確定スルコトハ固ヨリ得ベカラサレハナリ但シ生産ノ道タルヤ其廣大測リ知ルヘカラス故ニ斯ク

類別スルキハ之ヲ識ルニ於テ裨益スル所歟カラス且工業ノ大別ヲ記臆セハ其利益淺鮮ナラサルベシ今表出シテ之ヲ示スト左ノ如シ
農作工業即チ農業ハ養生物及ヒ製造ノ資ニ充ツベキ材料ヲ産出ス
製造工業即チ工業(之ヲ要スルニ人ノ需求ニ應シ物品ヲ製作スル事業)ハ其細目左ノ如シ
特ニ製造ニ用フル材料ヲ供スルモノヲ名ケテ抽出工業ト謂フ
器械カ及ヒ化學カヲ加ヘテ物貨ノ産出ヲ容

易ナラシムルモノヲ名ケテ豫備工業ト云フ
 身體ノ需求ヲ直接ニ達セシムル工業ヲ名ケ
 テ衣食住ノ三工業運輸ノ工業及ヒ智心需求
 ノ工業ト謂フナリ

商賣工業即チ商業ハ物産ヲ需求ノ時日又ハ需
 求ノ場處ニ運搬スルヲ謂フ

○諸工業ヲ集聚スルヲ要スルニ工業ノ諸科
 ラシテ其場所及ヒ其時代ニ於テ齊シク發育セ
 ント欲スルヲハ固ヨリ成ルヘカラサルナリ是
 レ即チ農業ト一般ニ社會ハ狀態ト自然ハ形勢

トノ影響ニ因ルモノナリ

余ハ先ツ社會ノ情態ヲ論究スベシ吾人須ラク
 野蕃人ノ工業ハ質朴陋劣ニシテ開明人民ノ工
 業ハ華美精巧ヲ究メ且其千種萬樣變化窮リナ
 キヲ知ルヘシ今古今ノ歴史ト地誌トニ就テ之
 ヲ見ル其梗概ヲ了スルニ足ルベシ試ニ見ヨ凡
 ソ人生野蕃ノ域ヨリシテ漸ク開明ニ赴クヤ第
 一從事スル者ハ生活ニ最モ切要ナル者ニシテ
 漁獵或ハ素樸ノ耕作ニ由テ僅ニ食物ヲ獲ルニ
 在リ第二ニ居處ハ巖窟又ハ木葉ヲ以テ覆ヒ夕

ルモノヨリ更ニ一層ノ便利ヲ得ント欲シ遂ニ
木材ノ屋舎ヲ造リ次ニハ石造ノ大厦廣屋ヲ建
築スルニ至ル又早晚衣服ヲ着セント欲シ其國
ノ寒暄ニ從ヒ初メハ寒地ニ於テハ唯其肩ニ獸
皮ヲ掛ケ熱地ニ於テハ繪具ヲ以テ身體ヲ彩飾
スルノミニシテ開明ノ世ニ於ルカ如ク布帛ヲ
織ルヲ知ラサルナリ但シ凡ソ地球上如何ナ
ル異域ノ蠻民中ソリトモ運輸交通ノ便利ト共
ニ必ス野卑質樸ナル衣食住ノ三科ヲ具備セサ
ルハナシ蓋シ國家富庶人智開明ノ進歩ニ隨ヒ

此等産業ノ各科モ亦漸ク發育シ愈出テ愈妙隨
テ種々繁縟ヲ極メ其勢殆ト底止スル所ナキニ
至ル

心智需求ノ工業ハ即チ開化セル人民ノ標章ト
謂フヘキナリ何ントナレハ今吾人カ製紙人活
板師彫刻師等ヲ見ルハ唯開明社會中ニ於テス
ルノミナレハナリ

各種工業ノ間ニハ自カラ權衡ノ宜キアリテ存
ス若シ國人皆家屋ノ建築若クハ運輸ノ業ニノ
ニ從事セハ日ナラズシテ餓死スヘシ然レ氏此

權衡ハ何ソヤ且夫レ自ラ任シテ之ヲ定ムルモ
ノハ誰ソヤ蓋シ世上開明ノ進歩スル毎ニ工業
日ニ振起スルノミナラス古來傳フル所ノ工業
モ亦愈改良シ愈廣大ヲ致スニヨリ此權衡モ亦
勢必ス變易セサルヲ得ス某工業ハ利潤ニ於テ
常ニ低昂ヲ生スル所以ハ其製作シタル物品ハ
市上ニテ有餘若クハ不足ヲ生シタル最確然カ
ル徵候ナリ故ニ人々ノ勤勞ヲ檢束スルノ法ナ
ク之ヲシテ適意ナラシメハ各自此徵候ヲ見テ
物品ヲ産出スルカユエニ自然各科ノ工業中ニ

權衡ノ宜シキヲ得セシムルモノナリ
其文明國ニ於テ許多ノ工業ヲシテ某一處ニ集
聚セシムルニ至ルハ他ナシ其社會ノ情態ニ由
ルナリ蓋シ此ニ人類ヲ團結セシメタル原因ノ
如何ヲ問ハス人ノ輻湊スル處ニハ則消費者ハ
數愈多キヲ加ヘ隨テ百工製造ノ業ヲシテ蓋振
起セシムル中心ト為ル知ルハキナリ今吾人佛
國中巴里ノ工業最モ活潑ニシテ其數最モ多ク
且其分科最モ細密ニシテ最モ容易ニ諸種工作
人ヲ得ベキ一大繁盛ノ市場タルヲ知ル又ムル

一ノス府ニ於テ棉布ノ製造及ヒ其近傍地方ニ化學的ノ物産及ヒ器械製作ノ日ニ振起シタルヲ知ル其由縁ヲ考フルニ他ナシ其社會ノ情態ニ由テ許多ノ工業ヲ一處ニ集聚セシメタルナリ自然ノ形勢ヨリ生スル影響ハ即チ各國氣候ノ寒暄ニ從ヒ又同國中各地方固有産業ハ適否ニ從テ多少人ノ職業ヲ分タシムルニ在リ例ヘハ航海ヲ為スニハ賣カニ海岸ヲ去リテ洋中ニ出サルヲ得ス故ニ沿海地方ノ船舶風浪ヲ避ルニ宜シキ江灣港口ニハ自然運輸工業ノ一分科ナ

ル造船場ヲ設ケ航海益盛トナルニ隨ヒ其工業モ亦益盛ナルハ必至ノ勢ナリ是レ即チ佛國ニ於テハ黒法波耳多及ヒ馬塞里等ニ最モ巨大ナル造船場ノ設立アル所以ナリ又例ヲ舉テ之ヲ説明センニ佛國北部ニ巨大ナル砂糖製造場ヲ設立セシ所以ハ其諸州豐饒ノ地ニ於テ多量ノ慕菜根ヲ産出スルカ故ナリ又バレンシアンノ近地及ヒロリア州ハ最モ石炭層ニ富ムヲ以テ自ラ硝子製造場室爐鍛冶場等ノ如キ許多可燃質物ヲ消費スル工業ヲ振起セ

是ニ由テ之ヲ觀レハ凡ソ製造所ヲ設立スルニ
 ハ必ス其目的ヲ定メ苟且ニス可カラス何トナ
 レバ其工業ハ成敗ハ全ク社會ハ状態ト自然ハ
 形勢トニ係ルヲ以テ宜シク先ツ之ヲ推究シ而
 シテ後ニ着手スヘシ若シ漫然トシテ之ヲ施設
 スルハ其失敗ヲ免レザルヤ必セリ
 ○勤勞ノ分科 尚加之凡ソ工業ノ成敗ハ全ク
 各起業上ノ一種特別ナル情態ニ係ルモノ多シ
 即チ一ハ起業ノ形體ニ關シ一ハ之ヲ指揮總督

スル者若クハ之ト協カスル者ノ才不才ニ係ル
 モノニシテ是レ吾人が常ニ許多ノ實跡ヲ見聞
 スル所ナリ例ヘハ一府内若クハ一地方ニ於テ
 同業製造場若クハ肆店ノ盛衰汚隆ハ殆ト常ナ
 ク甲ノ製造家ハ乍チ繁昌ニシテ乙ハ乍チ衰替
 ニ屬スルノミナラス或ハ失敗閉店ニ至ルモノ
 多シ

凡ソ起業ハ形體ハ大小共ニ起業者ノ隨意ニ任
 スルトイヘ正主トシテ其所有セル財本ノ多寡
 ニ賴ル(其詳細ハ以下第二回ニ説クヘシ)益シ財

本多ケレハ巨大ノ事業ヲ起ステ得ヘク財本寡ケレハ其計畫ハ僅カニ一小事業ニ止ルヘシ又工業ニ財本ヲ放スニ當テハ善ク反覆熟慮シテ漫リニ創業ノ際ヨリ其機關ヲ巨大ナラシム可ラス其局ヲ設クルモ或ハ虚飾心ヨリシ若クハ自己ノ資カヲ計ラス漫リニ大利ヲ博セントシテ分外ノ業ヲ起ス片ハ速ニ失敗ヲ致スカ然ラザルモ之カ為ニ終身憂勞ヲ招クニ至ルベシ凡ソ事業ハ大小ハ其製作シタル物品ヲ賣捌ク市場ハ廣狹ニ從フモハナレハ其工業ノ性質若ク

ハ之ヲ起ス地方人口ノ多寡ニ就テ之カ制限ヲ立サル可ラス已ニ上文ニ言フカ如ク市場ノ廣狹トハ物品消費ノ多寡ト其購求カノ大小トヲ云フ例ヘハ寶玉師ノ肆店ハ鐵道ノ事業ト一般ノ方法ト同一ノ巨大トヲ以テ開店スルヲ能ハサルヘク又村市ノ旅舎ハ巴里或ハ里昂ノ旅舎ノ規模ニ倣フテ之ヲ經營スルヲ能ハサルカ如シ
凡ソ藝業ニハ自然小工業ニ属スルモノト大工業ニ属スルモノトアレハ是レ亦世上ノ景況ニ

隨テ變遷常ナキ者ナレハ判然之カ區別ヲ立ル
 一能ハス例ヘハ曩時ニアリテ紡績ハ一小工業
 ニシテ僅カニ小民カ農隙ヲ以テ爐邊ニ營ム所
 ナリシガ紡績器械發明以來今時ニ至リ遂ニ大
 工業中ノ一科ト為ルカ如シ其此ニ至ル所以ハ
 蓋シ學術ノ進歩殊ニ器械術ノ進歩ニ由リ財本
 ノ増加セルト共ニ大工業ハ境界益擴張シテ漸
 ク小工業ノ區域ヲ蚕食シタルナリ
 又起業ノ大小ハ起業者ノ才ト不才トニ關スル
 モノ最モ多シトス是レ決シテ輕視シスベカラ

ス固ヨリ自然カト財本トヲ欠ク時ハ一事業ヲ
 モ做シ得ルヲ能ハサルハ一定ノ理トイヘ凡然
 レ凡之ヲ要スルニ自然ノ形勢ハ何程適應スル
 モ又財本ハ何程ニ豊富ナルモ之ヲ幹旋運轉ス
 ルハ人オナカリセハ一物トシテ産出スルヲ能
 ハサルベシ蓋シ聰明敏達ニシテ能ク教育ヲ受
 タル人ハ精神ニ次序アリ思考ニ規則アリ命令
 ニ威風アルハミナラズ其工業上些末ハ件々ニ
 至ルマテ充分經驗ハ功アルカ故ニ自ラ其熟達
 セル工業ノ種類及ヒ自己ノ資力ニ適スル財本

ヲ以テスルハ未タ其人ノ才能ヲ悉スニ足ラス
必スヤ幾多ノ巨大ナル事業ヲ統轄指令スルヲ
得ヘシ然レハ一人ニシテ此等ノ衆能衆智ヲ併
有スルモノ殆ント稀ナルヲ如何セン
凡ノ事業ニハ諸種ノ勤勞ヲ施用スヘキ途アリ
即チ甲ハ財本ノ所有高僅必ナレハ筋骨強健ニ
シテ寧ロ思考カヨリハ腕カニ富ムナラン果シ
テ然ラハ彼宜シク得意ノ能力ヲ利用センカ為
ニ工藝人ト為リテ其身ヲ勞動スヘシ若シ然ラ
スシテ自ラ巨大ノ製作場ヲ設立シ專ラ其督務

ニ從事シテ自己天稟ノ手藝ヲ活用セシメザル
中ハ却テ其身ヲ危險ノ位置ニ委ネテ遂ニ得意
ノ巧藝ヲモ併セテ失フニ至ルヘシ又ハ精神
ニ次序アレハ工藝ニ短ニシテ且工人ヲ監督ス
ルノ能力ナキニヨリ工人ト為レハ下等ニ列ス
ヘク業主ト為ルモ中等ノ地位ニ過キサルヘシ
然レハ工場ノ書記トシテ使役スルハ蓋シ第
二等ノ位置ヲ占ムヘキカ如キ是レ其人各長短
得失アレハナリ故ニ一大製作場ノ長若クハ一
小業主若クハ工藝人若クハ美術家若クハ役夫

タリ凡ソ吾職務ノ如何ヲ問ハス天稟若クハ
學ヒ得タル能力ノ最モ善ク適當スル者一從事
セハ社會公共ノ為ノミナラス尚自己一身ニ於
テモ最モ有益ノ分ヲ盡ス者ト云フヘシ假令ハ
茲ニ年々一百万フランクノ價アル物品ヲ産出
シテ之ヨリ年々五萬フランクノ純益ヲ収ムル
製作場ニ傭ハレテ之カ長タル某アリ彼若シ其
地位ヲ棄テ、毎日十フランクヲ得ヘキ傭工ト
為ラハ之ヲ稱シテ愚人ト云モ不可ナカルヘシ
何トナレハ其ハ自己ノ指揮ニ由テ産出スルヲ

得ヘキ利益ヲ自己一身及ヒ一般社會ヨリ剝奪
シタレハナリ之ニ反シ自己特別ノ技藝ニ由テ
日々十フランクヲ得ル傭工ハ自ラ其製造場ヲ
設立セントスルニハ先ツ豫メ自己ノ資カヲ計
ラサルヘカラス而シテ己ニ其業ヲ起スノ後一
ケ年ノ産出高ヲ計量シテ其諸費ヲ引去リ自己
生計ノ資ト財本ノ利潤トニ充ツルカ為ニ殘ス
所三千フランク以下ニ止ラハ其不足丈ケハ其
位置ヲ變換シタルカ為ニ自身ト社會トニ損失
シタルナリ且失敗ニ遇フアアラハ世間ヨリ不

才無能ノ謗ヲ受クルノミナフス蓋シ他人ヨリ
借入タル資本ト自己ノ財産トヲ併セテ之ヲ失
フニ至ラン畢竟左ノ一言ヲ記臆スルヲ要スル
ノミ曰ク各人ハ據ルヘキ最良ハ位置ハ功用ハ
最モ多キ者ニ就クニ若カスト

然ラハ其位置ヲ定メシムルモノハ誰ソヤ曰ク
各自固有ノ審斷ニ由ルニ若カス蓋シ各人ノ活
動カヲシテ自然進捗スルヲ得ヘキ程度ニ達セ
シムルモノハ獨リ各人自由權利ノ然ラシムル
所ナリ又之ヲ使役シテ公私ノ利益ヲ生スルニ

當リ已ニ其勢ノ致ス所ニ達シテ止ムニ至ルマ
テ益之ヲ増進セシムルヲ得ルモ亦此自由權利
ノ致ス所トナス

夫レ工業經濟ハ各人ノ頼テ擇取スヘキ事業ヲ
示スニ非ス其所論唯普通一般ノ事情ヲ指示シ
テ各自其事業ヲ起スニ當リ計畫スヘキノ津梁
ト為スニ過キス且其論ノ主腦ハ多量ノ財本ヲ
ルモノト假定スルカ故ニ此ニ示明スル所ハ左
ノ二條ニ止レリ第一其工業ヲ起サント欲スル
者ハ先ツ充分ニ此必要ナル財本ヲ備ヒ又能ク

其競争場ノ景況如何ヲ觀察セサルヘカラス然
 ラサレハ失敗ヲ免レサルヘシ蓋シ工人及ヒ工
 場ノ手代等ハ必ス智識ト勤勉カトニ由リテ其
 事業ヲ成就スルヲ得ヘシトイヘ凡起業主ハ此
 二能力ニ加フルニ充分ノ財本ヲ以テセサレハ
 其事業ヲ完フスルヲ得サルヘシ第二ニ凡ソ工
 業ハ其職工ノ賃銀及ヒ財主ノ利潤益多キニ從
 テ益活潑カラ加フルモノトス然レ凡斯ノ場
 合ハ例外ニシテ其賃銀及ヒ利潤ノ非常ニ高價
 ナルハ一種特別ノ事情ニ緣因スル者ト斷定セ

サル可ラス加之凡ソ事業ヲ起スノ初ハ頗ル刻
 苦耐忍ヲ要スレ凡創業ノ功已ニ成ルキハ隨テ
 世間普通外ノ利潤ヲ收ムルヲ得ヘシ然レ凡此
 ハ唯一時ノ利ヲ博スルニ過キス遠カラス普通
 利潤ニ復スルモノト知ルベシ何トナレハ他人
 其工業ノ利アルヲ見テ争テ之ニ從事スレハナ
 リ

然レ凡何等ノ事業ヲ起サントスルモ漫然ト手
 ヲ下スヘカラス假令ヒ知識ニ富ムル者タリ凡
 之ニ從事スルニハ自ラ經驗ノ功ヲ積ミ而シテ

後為ス所アルハシ是故ニ業主タラント欲スル者ハ自ラ危険ヲ冒サス先ツ業主ノ徒弟トナリテ其指示ヲ受ケ道具器械ノ運用ヨリ職工ヲ使役スルノ方法物料ノ仕入方及ヒ製造品ノ賣捌方等ニ至ルマテ事細大トナク一切學脩練達スルヲ要スル所以ナリ若シ此ニ省察セス漫然其業ニ着手セハ素ヨリ熟練ヲ欠クヲ以テ事毎ニ其財本ノ一部分ヲ失ヒ其事業ニ熟練スル比ヒニハ全ク産業ヲ破リ奈何トモスルナキ窮乏ノ極ニ至ル此故ニ業主ノ子弟タル者幼ヨリ自然

實際上ニ就テ其營業ヲ見倣フカ故ニ性質之ヲ襲クニ適スレハ概シテ其利益歟カラス然レモ其子弟ヲシテ業務ヲ監督セシムルニ先夕チ宜シク他ノ業主ニ就カシメ以テ一身ヲ脩ムルノ道ヲ知ラシメサル可ラス

○工。藝。教。育。凡ソ起業ノ成敗ハ首トシテ人ノ賢不肖ニ在ルカ故ニ第一其人ヲシテ幼稚ヨリ教育ヲ加ヘ之ニ必要ナル德行知識ヲ開發セシメ以テ人物ヲ養成スルヲ要ス
 古。人。曰。ク。身。體。強。壯。ナ。ル。ハ。心。神。亦。健。全。ナ。リ。ト

果シテ高尚ニシテ且強健ナル勤勞ヲ執ルニハ
心身健全ナラサルヘカラス虚弱ナル者ハ往々
優游不斷ニシテ事ヲ決定スルヲ能ハス安ソ能
ク大事業ヲ擔當スヘケンヤ凡ソ人トシテ常ニ
四肢ノ屈伸ヲ自在ナラシメ且之ニ技巧ヲ得セ
シムルニハ規則ヲ定メテ日用ノ事ヲ執ルト適
度ニ身體ヲ勞動セシムルトニ在リ是レ身體教
育ノ二大則ナレハ何業ヲ問ハス凡ソ子弟タル
者ヲシテ必ス此ニ從事セシメサルヲ得サルモ
ノトス

又人ハ何ノ業ヲ問ハス凡テ心神教育ノ全部ナ
ル行爲上ニ就テモ身體ト一般ノ性質ヲ具備ス
ルヲ要ス第一心志ヲ某ノ事ニ應用スルハ一大
カアルヲ要ス是則チ幼年脩業ノ間ニ養成スヘ
キ者ニシテ成人ニ至リ事業ヲ執ルノ愛心ト平
意ニシテ難事ヲ處決スルノ慣習トヲ得セシム
ルモノナリ第二交際上ニ關セル方正律義心ア
ルヲ要ス是レ即チ幼稚ニ在リテハ朋友ノ愛ス
ル所トナリ後年自ラ營業ヲ執ルニ當リテハ主
顧者ノ信任ヲ得且衆人ニ敬セララルノミナラ

ス尚同業中ニ於テ自ラ威徳アルヘシ余カ此ニ
論スル所ハ此二條ニ止ル其詳細ヲ知ラント欲
セハ須ラク脩身學ニ就テ見ルヘシ

又心智教育ハ如何ナル社會ノ情態ニ於テモ必
ス欠クベカラサルモノナリ然レモ小學教育ニ
由リ凡ソ童子ヲシテ幾ト一様ナル初學須知ノ
要ヲ知ラシメタル後ハ各自其志ス所ノ目的ニ
隨ヒ學習ノ方法ト旨趣トヲ異ニセサルヘカラ
ス

佛國ニ於テ凡ソ文學ニ志アル少年ハ小學卒業

ノ後ヲ俟チ中學ニ入ルヲ例トス中學ハ則チ希
臘及ヒ羅馬ノ古學及ヒ佛獨英ノ語學其他諸學
科ノ本源ヲ學ハシムルカ爲ニ設ル所ニシテ其
教育ノ方法モ亦極メテ裨益アルモノナリ

然レモ農工商ノ事業ニ志ス所ノ少年子弟ハ學
士タラント欲スル者ニ比スルニ閒暇尤モ寡ナ
キカユエニ更ニ一層ノ速成ヲ欲シ且最モ本業
ニ從事スルヲ得ヘキ方便ヲ索メサルヲ得ズ此
徒ノ目的ハ千種萬様ナルカ故ニ其方便モ亦自
ラ千種萬様ノ別アリ普通中學教育ニ從事シテ

歲月ヲ遷延センヨリハ寧ロ志ス所ノ本業ニ就
キ速ニ其効ヲ奏スルニ如カス

凡ソ小學ヲ卒業シタル少年子弟ニシテ工人タ
ラント欲スル者ハ業主ノ徒弟トナリ其指示ヲ
受テ之ヲ視之ニ倣ヒ且其工事ヲ助ケテ自然ニ
之ヲ學習スルヲ常トス佛國ニハ許多ノ徒弟學
校アリ此校ニ於テハ兒童ヲシテ小學校ヲ兼子
學ハシメテ各志ス所ノ工藝科ヲ教授セリ
兒童ハ其徒弟タル間或ハ其傭業ヲ了ルノ後必
ス學ハサルヘカラサルモノニアリ一ハ即チ普

通科ニノ因テ以テ事物ノ理ヲ通曉セルモノト

ス一ハ畫學ノ如キ専門科ニノ之ニ由テ各自其

志ス所ノ事業ニ必要ナル知識ヲ得ルモノトス

佛國ニテハ凡ソ父兄タル者其子弟ノ小學在學

歲月ノ久キヲ得ヘキ餘裕アル者ノ爲ニ別ニ工

業學校ノ設アリ是レ即チ専門中學校ニシテ其

教フル所ノ者ハ第一佛英及ヒ獨語地理歴史數

理物理等ノ諸學科ナリ凡ソ此教科ハ特ニ後年

工業ニ従事スルニ當テ直ニ裨益ト為ルヘキモ

ナリ固ヨリ此學校ハ直接ニ工藝ヲ教フルノ

目的ニ非スト雖モ宛モ少年ノ知識上ニ一種ノ
武庫ヲ備フルノ類ニシテ後年ニ至リ諸工藝及
ヒ社會上ノ諸事業ニ從事スルニ當リ之ニ先ツ
テ有用ノ武器ヲ備フルヲ得ヤシムル者ナリ譬
ヘハ賈人タル者幼ニシテ英語及ヒ獨語ヲ學知
スルモ佛國近傍ノ諸國人ト容易ニ接遇スル
ヲ得而シテ數百里外ニ在ル市場ノ景況ニ通ス
ルヲ得ルニヨリ自ラ其國ニ行テ直接賣買ヲ爲
スヲ得ルノミナラス暫時滯留スル間モ簡短ニ
其國語ヲ談話スルヲ得ヘシ何トナレハ其階梯

ハ己ニ學知スル所ナレハナリ又能ク地理學ヲ
學フモハ各國工商ノ大勢ト各地方ノ物産トニ
通曉シテ某地方ニハ某ノ物産ヲ販賣スルノ便
利アリ又某ノ貨物ヲ輸送スルモハ必ス幾許ノ
利潤アルヘシト自ラ胸中ニ成算ヲ運スルヲ得
ヘシ凡ソ賈人ハ其商賣上ニ就テハ宛モ琴ヲ彈
スル人カ樂器ノ譜ヲ諳知スルガ如ク親シク世
界ノ事情ニ通セサルヘカラス又應用學科ニ由
テハ道理上ノ方法ヲ用フルモハ其工事ヲシテ
最も儉約最モ利益多カラシムル所以ヲ了解ス

ハク且器械學、物理學、化學、博物學ハ何等ノ資料ヲ供フル者タルヲ了解スベシ而シテ此等ノ知識ハ何等ノ工業ニモ欠クヘカラサル者ニシテ最初只一見スル所ニ於テハ殊更ニ相異ナル無キカ如シトイヘ氏一トシテ有益ナラサルハナク他日銳敏者ノ必ス就テ利用スル者タルベシ凡徒弟ノ業ヲ習フヤ前途ノ目的已ニ定マリ一トシテ専門科タラサルハナシ故ニ工學教科ハ其區域最モ遠大ニシテ最モ廣ク諸科ニ涉ルモノナリ即チ工業ニ適セル精神ヲ教育スル者

ト不凡ソ少年此法ニ由テ養成セラレント欲セハ第一ニ事物ヲ總理スルノ性質ヲ保存スルヲ要スルノミナラス特ニ知識ヲ發育セサルヘカラズ然レ氏其修業スル所ノ目的ニ從ヒ此事ニ至テハ多ク其方便ヲ異ニスルヲ得ベシ事實又之ヲ異ニセサルヲ得サルヲアリ例ヘバ海港ニ居住スルモノハ獨語ヨリハ寧口今日遍ネク海上ニ行ハル、所ノ英語ニ心ヲ注ギ又佛ノ南部ニ居ル者ハ蓋シ意大利語若クハ西班牙語ヲ諳ンズベクロロン或ハ里昂ノ如キ大都會ニ在テ

ハクルーヴ佛國ノ州ニ於ル徒弟ガ多ク冶金術ヲ學フニ時ヲ費スト一般ニ務メテ染料化學ヲ講究スルヲ要スルカ如シ

昔時佛國ノ人民斯ル有用ノ學科ヲ脩ムズ今ヲ距ルヲ數十年前マデ凡ソ學問ハ專ラ希臘及ヒ羅甸ノ學ニノミ止リ而シテ之ニ從事スルモノモ亦上等士人若クハ僧徒タラントヲ願フ者若クハ學士タラント欲スル者ニシテ人民教育ニ至テハ僅々ニ過ギサルノミ況ヤ工藝科ノ如キニ於テヲヤ然ルニ今日ハ社會開明ノ進ムニ

從テ普通教育ノ事ハ治道ノ一大問題ト爲リ隨テ工業各科ノ進歩亦駸々トシテ日ニ盛ニ其勢學校ヲ設立シテ之ガ教育ヲ爲サ、ルヲ得ザルニ至ンリ日耳曼諸邦白耳義及ヒ瑞西ニテハ普子ク此教育ヲ施行セリ然レ氏佛國ニテハ僅ニ之ニ先ツテ即チ一千八百五十年前ノ創立ニ係ル公私工學校數種アリ里昂ニ於ル「マールチ子」ル校巴里ノ「トルゴウ」校及ヒ「シヤポタル」校等是ナリ而シテ數名ノ宰相等ハ普通教育ニ於テ工藝科ヲ教フルノ方法ヲ設ント此ニ熟慮スル

一久シク遂ニ一千八百六十五年六月十五日ノ
布令ヲ以テ律法ノ准可スル所ト爲リ此教科ヲ
シテ中學校ノ中ニ編入スルカ若クハ特別ニ費
舎ヲ設テ普ネク教授スルノ制度ヲ設ケタリ
一科ハ工藝ヲ專門ト爲シ少年ヲ教授スルノ方
法ハ既ニ前時ヨリ施行スル所ニシテ工師ノ徒
弟ト爲ル者即チ是ナリ是レ今日普通教育ニ於
テ最モ屢々完全セシムルヲ要スル者ニシテ應用
專門科ノ最モ進歩シタル地方ニ於テハ既ニ實
施スル者アリ即チ鑛山學校、土木學校、中央學校

等府縣廳ノ設置セ
ル市府ニアル者此ヨリ一等ヲ下リテハ即チ
職工學校、高法上等學校、ムルーズノ紡績及ヒ織
物學校等是ナリ又此等ノ學校ハ應用學科ノ數
科ニシテ之ニ因テ以テ諸工業ノ大發明及ヒ良
法ヲ世人ニ汎布スルノ處トナス而シテ其學術
ノ最モ完全大成セル模範ハ工業真正大學校中
ノ技術及ヒ手技ノ博物局ニ在リ現今此等ノ應
用學科ヲ講究スル捷徑ノ日ニ益々開ケタルハ一
ハ以テ學問知識ヲ汎布スルノ資ト爲リ一ハ工
藝教育上ニ最モ裨益アル方便トナレリ

ノ功效ニ由ラサレハ爲スト能ハス然レモ財本ト勤勞トニハ必ス常ニ報酬アリテ存セリ而シテ産出スル所ノ物品ノ分量愈豊富ナレハ此報酬愈多シトス然ルニ學術ハ大ニ之ト異ニシテ最初ハ安價ニテ仕事シ後速ニ無報酬ニテ縱ヒマハニ各人ハ任用スル所ト為ルナリ
第一學術上ノ新發明ヲシテ工業ニ適用セシムル時ハ之カ爲ニ同物品ヲ前日ヨリ安價ニテ産出セシムルカ若クハ同價ニテ一層良好ノ物品ヲ産出スルヲ得ヘシ是レ其經濟ニ利アルトハ

前ヨリ勤勞ヲ寡フシテ其需求ノ欲ヲ達セシムルニ因リ其物貨ノ販賣者ニハ更ニ一層ノ利益ヲ收メシメ其購求者モ亦前日ニ比スレハ低價ヲ以テ同物品ヲ得ルニ至ルヘシ
第二ニ吾人ハ學術上ノ發明創造カヲ無報酬ニテ世人ニ放擲スルハ何ソヤ是レ讀者ノ大ニ了解スルヲ要スルノ點ニシテ即チ經濟上現象ノ一大綱領ヲ説明スルニ足ルモノナリ
已ニ論スルカ如ク人ハ心智勤勞及ヒ財本ノ三者ニ由テ天地間ノ萬物ヲ駕奴統轄セリ蓋

シ此三者ハ今ヨリノ後百年若クハ千年ヲ經ルモ今日ト一般ニ生産上欠クベカラサルヤ必セリ

百年若クハ千年ヲ過ケルモ其用フル所ノ財本ニ向テハ必ス報酬即チ利潤ヲ云フヲ致サバルヘカラス蓋シ財本益多ケレハ此報酬ハ必ス減少スヘシ尚其減少ハ少ク氏人ニ節儉ノ心ヲ勵マシテ益財本ヲ造出セシムルノ程度ニ止ラサルヘカラス但財本ノ利潤ハ其増加セル割合ニハ減ゼサルガ故ニ財本ハ何程増蓄ス

ルモ其需要甚々多ケレハ其價格益騰貴スベシ是レ事實ニ徴シ極メテ顯著ニシテ人苟モ之ヲ排撃セント欲スルモ豈得可ケンヤ蓋レ工業盛大ナレハ益財本ヲ増加シテ愈其要路ヲ増加シ以テ其利潤ノ下落ヲ限制スレハナリ

百年若クハ千年ヲ經ルモ勤勞ニハ必ス報酬ヲ與ヘサルヘカラス看ヨ人ノ拮据辛勤以テ筋骨ヲ勞スル所以ハ其衣食住ヲ達セント欲スルニ非スヤ又工業ノ進歩日ニ益盛大ナレ

ハ勤勞ニ酬フル所益多クシテ公衆一般若ク
ハ一個人ノ多數中ニ布及スル幸福愈多キニ
至ルヘシ是レ工業ノ發育ト其功用ノ結果ト
ニ由ルヤ章々トシテ明カナリ
然ラハ物貨ノ低價ニ至ルハ何ニ因ルヤ此問
題ハ大ニ往日ノ經濟學者流ヲ窮蹙セシメタ
ルモノニシテ數輩曰ク賃銀ノ世間一般ニ騰
貴スルヲハ到底有ルヘカラスト實ニ事物ノ
間ニ變動ナカリセハ財本ノ利潤モ起業者ノ
利益モ工人ノ賃銀ニ向テモ特ニ多量ヲ惠與

スルヲ得ンヤ若シ今日金銀貨幣ノ流通高世
間ノ需要ニ比シテ其割合多キヲアレハ昨日
マテ半圓ヲ與ヘタリシ給料モ今日ハ一圓ヲ
與フルヲ得ヘシ然レ氏其一圓ヲ以テ購求ス
ル物品ノ多寡ハ昨日ノ半圓ヲ以テ購求スル
所ニ過ギサル可シ

此假説ハ曾テサンコパンサ氏ガバラタリ
小島ノ政廳ニ於テ審斷シタル訴訟ヲ回想セ
シムルニ足ルモノナリ一農夫アリ一個ノ頭
巾ヲ製スル丈ノ羅紗ヲ齎シ一裁縫店ニ行キ

テ之ヲ命シタリ時ニ農夫ハ裁縫店ガ其幾寸尺ヲ欺キ取ンコトヲ恐レシガ固ヨリ看守者ヲ附スルニ由シナケレバ之ニ謂テ曰ク汝此羅紗ヲ以テ二個ノ頭巾ヲ製作シ得ヘキヤト彼答ヘテ曰ク之ヲ造ル容易ナリ唯君ノ命是レ從ハン農夫ハ之ヲ聞テ大ニ驚キ益疑心ヲ生シ又曰ク三個ヲ製作シ得ヘキヤ曰ク唯々命ノマ、ト四個五個ハ如何曰ク唯々命ノマ、ト是ニ於テ約ヲ訂シ農夫ハ數日ヲ經テ往キ見ルニ裁縫店ハ悉ク其羅紗ヲ割テ小兒ノ頭

巾五個ヲ製作セリ是レ訴訟ノ原因ナリ固ヨリ羅紗ノ原尺ニ變易ナケレハ小ナル者ヲ作ルノ外他ナシ蓋シ其寸尺ヲ大ニスルコト能ハサルハ論ヲ待タスシテ明カナリ然レモ工業ニ因テ此羅紗ノ一片ヲ大ナラシメタリ是レ往昔ノ經濟家ノ知ラサル所ナリ蓋シ羅紗ハ一國ノ富ナリ而シテ今ヨリ一百年來佛國富實ノ増殖ハ工業會社人負ノ増加セルヨリモ甚タ多キハ世人ノ疑ヲ容レザル所ナリ看ヨ人口ハ一個ヨリ一個半ノ割合ニ

増シハニ工業ハ未タ精細ノ計表ヲ得サレモ
蓋シ一個ヨリ十個ノ割合ニ増加シ又統計表
ニ據レハ外國貿易ハ一個ヨリ七個半ノ割合
ニ増加シタルヲ

斯ク百工製造ノ進歩シタルハ多クハ人ノ心
智ノ啓發ト其無報酬ニシテ縱マ、ニ人ニ便
益セルトノ致ス所ナリ吾人ハ百年間心智ヲ
費シタルモ之ニ報フル所ハ別ニ多カラス然
ルニ片時モ間斷ナク吾人ト協同シテ活動ス
ル者ナリ

今ヨリ百年若クハ千年ヲ經ルモ吾人ハ心智
ノ功用ニ向テ今日ヨリ別ニ多分ニ報フル所
ナク且己ニ久シク天下公衆ノ普子ク知ル所
ト爲ル者ハ宛モ猶祖先ノ研究シタル心智カ
吾人ヲ裨益セシムルカ如ク無報酬ニテ永遠
ニ吾子孫ノ勤勞ヲ容易ナラシムヘシ
假令ヘバ吾人カ一日千里ヲ馳スル鐵道ニ乘
ルモ之ニ報フルモノハ鐵道ノ價ト之ヲ建築
シタル工人ノ賃銀トニ過キサルヘシ其發明
者ハ何人タルモ毫モ之ニ報酬スル所ナキナ

假令へハ吾人カ荷車ヲ購フ所ハ之ニ給スル
 所ノ代價ハ蓋シ其木材金具及ヒ細工ノ手間
 料ノミナルヘシ初メ之ヲ發明シタル者ニ報
 フル所ハ毫モ無カルヘシ吾人ハ機械師ニ就
 キ織機ヲ購求スルニ方テ何ノ故ニ代價ヲ給
 スルヤ蓋シ其材料ト細工賃トノミナラン斯
 ク種々ノ結構ヲ設ケテ斯ク著シク工人ノ作
 業ヲ容易ナラシメタル者ハ全ク人ノ思考力
 ニ出テサルハナシ然リ而シテ今日全ク無報

酬ニテ縦マ、ニ人ニ便益スル者ナリ又其蒸
 氣機關ノ如何ヲ思考スルニ蓋シ其細事ヲ完
 全スルニ至テハ多ク後人ノ發明工夫ニ出ル
 者アレハ其功勞ハ全ク元來ノ發明者ニ歸セ
 リ然レハ其器械ヲ構造スルハ廣ク世人ノ恣
 ニスル所トナレリ
 假令へハ爰ニ人アリ其器械師ニ就テ一百馬
 カノ蒸氣機械ヲ製セシメント欲シ其價ヲ問
 ヒタルニ器械師曰ク余ハ汝ニ向テ馬一頭ノ
 價一百倍ヲ請求スルモ肯テ不當ニハアラサ

ルヘシト其人乃チ冷笑シテ之ヲ辭シ其近傍
ナル他ノ器械師ニ就テ之ヲ謀リタルニ彼ハ
先ノ器械師ヨリ更ニ相當ノ計算ヲ立テ、斯
ク云ン曰ク余カ製造セル器械ハ即チ材料ノ
價若干職工ノ賃銀若干余カ通例ノ出費若干
利潤若干ニシテ合計汝ニ販賣スヘキ代價ハ
若干ナリト是ニ於テ其ハ後者ニ就テ其器械
ヲ購求セハ運轉カラ起スノ資トシテ蒸氣力
ヲ用キルノ思考ハ無報酬ニシテ利用スル所
ナリ尤モ此思考ハ己ニ世間公衆ノ所有ニ歸

シタル者ナレハ無報酬ニテ之ヲ得ルハ固ヨ
リ正理ニシテ其器械師タルモノモ亦其機械
ヲ造ルニ無報酬ニテ利用シタル者ナリ
故ニ第三ノ活動者タル知識ハ勤勞及ヒ財本
トハ全ク其性質ヲ異ニシテ何程之ヲ使用ス
ルモ毫モ其實價ヲ減スルコトナク無報酬ニシ
テ速カニ勤勞及ヒ財本ヲ助クル者ナリ
凡ソ人類世ニ棲息スルノ間ハ短シトイヘ氏
決シテ熒然孤立スル者ニ非ス父子兄弟姻戚
親愛及ヒ一國一郡ノ團結ノミナラス尚且人

類ト共ニ傳來セル有形ト無形トノ資本(即チ積蓄財本ト知識トヲ云フ)ヲ造成セル社會ノ資力ニ由テ父子相繼キ世々相兼クル者ナリ故ニ人世文明開化ノ基本ハ此ニ資本ニシテ最モ貴重スベキ者ナリ是ヲ以テ父子相繼キ世々相兼クル所ノ人民ハ其職分トシテ能ク之ヲ保存シ能ク之ヲ增長シ以テ來世ノ子孫ニ傳ヘサル可ラス然レ氏此二者ニ就テ最モ貴重スヘキ者ハ智識ノ資本ナルヘシ何トナレハ智識ハ唯富實

ノ根源ナルノミナラス毫モ惜ムコトヲ須ヒス自由ニ其幸福ヲ配布スルヲ得ヘク且一回之ヲ失フトハ其恢復ハ最モ難キ者ナレハナリ例ヘハ外寇アリ其文明國ノ州邑ヲ侵スニアルモ敵兵已ニ退クヲ俟チ人民各産業ニ従事スルヲ得レハ僅ニ一二年ヲ出スシテ其蹂躪ヤル跡ヲ消滅スルニ至ルベシ然レ氏國家衰替レテ其人民ヲ蒙昧野蕃ノ中ニ沈淪ヤシメハ其悲惨ノ狀ヲ消除ンテ此ニ新クニ知識ノ果實ヲ結ハシムルハ蓋シ數百年間ノ星霜ヲ

要スベケレバナリ

畢竟心算ノ資本ハ何ノ工業ヲ問ハス之ニ着手スルヤ益無報酬ニテ直ニ之ニカヲ假入者ニシテ人ノ思慮及フ可ラサルカ如キ造化ノ無盡藏ニ勞セス接近シテ其種々ノ需求ヲ達スルヲ得ヤシムル者ナリ凡ソ世ニ一夫發明ノ現出スル時毎ニ吾人ハ一步ヨリ一步ヲ進メテ夫ノ無盡藏ヲ探究スルモノトス看ヨ最モ高價ノ資料ニ加フルニ最モ高價ノ賃銀ヲ給與シタル人工ヲ以シテ而シテ製作シタル

物品ヲ最モ廉價ニ販賣スルヲ得セシムルモ

ノハ心智資本ノ効功ノ致ス所ニ非スシテ何

ソヤ 譯者曰ク此一篇ハ著者カ自著ノ他ノヤ 經濟書中ヨリ抜載シタル者ナリ

讀者前説ニ由テ之ヲ考フレハ凡ソ生産ノ道ニ

於テ心智活用ノ欠クベカラサルト又之ヲ發育

セシムル教育ハ社會ノ大關係ヲ有スルヲ知

ルヘシ

蓋シ此教育ニ關シテハ一人利害ノ關スル所モ

亦一國社會ト一般ニシテ各人共ニ心智ノ教育

ヲ被アレハ隨テ自己ハ價格ヲ増益スヘシ即チ

職工ハ之カ為ニ高價ノ賃銀ヲ得ベク業主ハ之カ為ニ許多ノ利潤ヲ收ムルヲ得可シ試ニ其屋宇ノ建築場ニ入テ其諸工人ニ給スル所ノ賃銀中堀土人ト石工ノ賃銀トヲ比較セヨ又建築者ト助手人トノ賃銀ヲ比較セヨ蓋シ霄壤ノ差アルヘシ果シテ然ラハ其高價ナル者ハ他ニ非ス心智教育ニ由リ人々ヲ啓發シタル附加ノ價格ナルヲ了解スヘキナリ人或ハ曰ク已ニ前説ノ如クナラハ事物ノ知識ヲ得ル毎ニ之ニ由リ限リナク工人ノ賃銀ヲ増

加スルヲ要スルヤ曰ク然ラス假令ヘハ讀書算術ヲ為シ得ル者寥寥タル晨星ノ如キ邦國ニ於テ二三ノ之ヲ能クスル者アレハ其得ル所ノ給料ハ他人ヨリ更ニ一層ノ多ヲ加フヘシ又國人率ニ皆之ヲ為シ得テ二三ノ之ヲ能セサル者アルモ其徒ノ賃銀ハ敢テ他ノ一般ノ人民ヨリ少カラサルヘシ蓋シ其二三人民カ普通外ノ給料ヲ得ルハ其技能普通人民ハ右ニ出ルニ在リ然レドモ是ハ國民ニ強大ナル産出カラ得セシメテ其公衆ノ幸福ヲ更ニ一層宏大ナラシムル者ハ

普通人民ハ心智ノ本位ヲ高尚ナラシムルニ在
リ是故ニ吾輩ノ所願ハ全國人民智識ノ本位ヲ
シテ漸々ニ高尚ナラシメ之ト同時ニ此本位上
ニ一個人ノ心智ヲモ傑出セシムルニ在リ蓋シ
國家ノ德實富強ヲ進歩セシムル情由ノ一ハ斯
ク人民教育ヲ振作鼓舞スルニ由ルヘシ
○工業上ニ於ル技藝及ヒ學術凡ソ何ノ國何
ノ時ニ問ハス總テ工業ハ皆天ノ賦與シタル光
輝ニ由テ益高尚ノ域ニ達スルモノナリ即チ人
ノ手工上ニ賦與スルニ智識ヲ以テシテ而シテ

其中ニハ技藝ノ模範ニ由テ物ノ美ヲ味フノ情
意ヲ胚胎セシメ又學術ノ方式ニ由リ最モ儉約
ノ方便ヲ以テ利ヲ收得スルヲ得セシメタリ
然レモ心智ハ常時同一ノ方法ト同一ノ勢カト
ヲ以テ活動セサルモノナリ凡ソ技藝ハ時代ヲ
逐フテ變遷スル者ニシテ初メ其趣向ヲ振起シ
テ其精神ヲ收復シタル社會ノ隆替ト共ニ其完
全ヲ致シ其精美ヲ極メ且衰替スル者ナリ凡ソ
技藝ハ人世社會ガ其時代ニ於テ得ル所ノ美ノ
思想ヲハ人ニ感應スヘキ其圖形ト為シテ後世

ニ傳ヘント欲スルヨリ起ル者ナレハ彼ノ數十年ノ思慮ト數千百回ノ經驗トヲ以テ成ル所ノ學術ヨリハ更ニ一層自然カニ出ル者ト云フ可シ尚偶然ノ者ト云フモ可ナリ夫ノ學術ノ完全セルモノ、甚ク微小ナル往時カ斯ク後世ニ夸ルニ足レル技藝ヲ振起シ而シテ其模範ノ純粹端正ナル後人ノ遠ク企テ及ハザルカ如キ者ヲ後世ニ傳フルハ此理ニ外ナラス尚是レ技藝ヲ以テ工業ハ先師ト稱スル所以ニシテ工業ハ太古ヨリ今日ニ至ルマテ其規律ニ順從シテ動カ

ズ曾テ家材陶器其他日用ノ諸什器ハ建築術彫刺術及ヒ畫術ガ技藝ニ模擬シテ設ケタル定式ニ隨テ之ヲ作為シ而シテ其造成物ニハ遠クハペルシクル時代ノ希臘近クハ歐洲ノ技藝再興時代ノ佛蘭西及ヒ意大利ニ於テ技藝ノ最モ盛大隆美ヲ極メタル時代ニ當テ特ニ有名ナル模様ヲ附タルモ亦此理ニ外ナラサルナリ夫レ人ノ手續上ニ妙技ヲ發育ヤシムル者ハ勤勞ニ心ヲ應用スル方法ノ一ニシテ即チ繪畫ヲ脩メムルニ在リ凡ソ國民タル者自國ノ產出物ヲ

保存シ或ハ之ニ華美ノ模様ヲ付與センコトヲ願フ者ハ大ニ畫學ニ心ヲ注ガサルヘカラズ
 凡ソ學術ハ勤勞トハ相分離シテ久シク一致ナラサル者ナリ何トナレハ手工上ノ勤勞ハ概ム
 不人ノ蔑視スルモノタルノミオラス學術モ亦實地上ノ細事ニ涉リ精研討究シテ一定ノ規矩ヲ設ルニ至ルマテ充分ニ造化ノ蘊奧ヲ闡發シ
 悉サレハナリ余カ爰ニ學術ト稱スルモノハ學者ノ講論セルモノヲ云フナリ何トナレハ凡ソ吾人ノ知得スルモノ、苟モ理義ニ合フモノ

ヲシテ悉ク此名目中ニ包括スルキハ既ニ云フカ如ク簡單ノ諸道具モ皆此普通學術ノ理ニ基キ造リタルモノナレハ其功用ハ世界開闢ノ時代ニ遡ルマテ布及スベケレハナリ夫ノ野蕃ノ人民ニ魚骨ヲ以テ獸皮ヲ接合スルヲ教ヘ又獺ヲ事トスル人民ニハ禽獸ノ骨ヲ截テ針ト為スヲ教ヘ文明ノ人民ニハ此骨ニ代フルニ真鍮若クハ鐵造ノ精巧ナル針ヲ以テスルヲ教ヘ終ニハ精巧ナル織物ヲ製スル器械ヲ創造セシメタルカ如キ是悉ク皆學術ノ功效ニ出ザルモノナ

ケレハナリ

適切ニ之ヲ論スレハ學術ヲ製作上ニ適用シタルハ一千七百年代ノ間ニ在リテ其功ハワヅト蒸氣ノ發明者ラボアゼア佛國ノ化學者ハ二氏ニ濫觴セシ一人ハ蒸氣カラ器械ニ適用シ一人ハ化學カラ應用シタリ初メ蒸氣器械ハ工人ノ腕力及ヒ動物カニ代フルニ頗ル規矩齊整ナル一個ノカヲ以テシ後漸々進歩改良ヲ加ヘ遂ニ諸機關ヲシテ數理ノ法則ニ從テ構造シタル一大製造場ニ變成シタリ又化學ハ造化ノ妙用ヲ吾人ノ工業上

ニ應用セシメテ斯ク製造場ニ變成スルノ助ヲ爲セシフ少カラス器械及ヒ化學的ノ作用即チ凡ソ物體ノ運動カト抱合カトハ今日工作場ニ於テ理科試験所ニ於テスルモノト一般ニ規矩齊整シテ其功ヲ奏シ而シテ工業家ハ恰モ理學者ノ如ク此カノ原因ト結果トノ正シキ知識ヲ有シ其論理上ノ域内ニテ發明スル所ノ者ハ一トシテ直ニ工業上ニ適用スルヲ得サルモノナシ實ニ論理上ニ由テ成就シタル實地ノ業ハ尚之ヲ推究スルガ爲ニ廣大無量ナル經驗ノ餘地

ト千狀萬態ノ疑件トシ供ヘ隨テ之ヨリ發明ス
 ル所ノ者ヲ完全大成ナラシムルモノトス之ニ
 由テ學術ト工業トハ間ニハ常ニ間斷ナキ一帯
 ハ流ヲ通シ氣脈ヲシテ接續セシムルモノナリ
 是即チ定法ニ循テ萬物ヲ究理セルノ結果ニシ
 テ一千八百年代ノ勤勞ノ一種固有ナル者ト云
 フベシ

○工業上ノ發明創成所ノ權 凡ソ所有物ハ人
 身ノ勤勞ヨリ成ルモノニシテ各人自主自由ノ
 權ヲ以テ造リタル者ナレハ此權ト共ニ毫モ他

人ノ得テ犯スヘカラサルモノトス 諸人ノ思考
 ノ勤勞即チ思想ヲ以テ發明創造シタル事物ノ
 如ク其人ノ一身上ニ屬シテ斯ク直接ニ聰明知
 識ノ活動ヨリ發出シタル者ナカルベシ然リ而
 シテ第一ニ之ヲ私有スル權利ハ正シク其發明
 者ニ歸シテ世人モ亦之ヲ認許セザルヲ得ス是
 レ經濟學ノ最モ細密ニシテ精妙ナル論點ナレ
 ハ能ク其現象ヲ解剖シ而シテ後ニ説明スルヲ
 可トス

吾人物料ヲ執テ之ニ勤勞ヲ施スルハ隨テ其形

體ヲ變シテ一個ノ物品ヲ造出スヘシ此物料自
 己ノ所有物タラハ其物品ハ全ク我所有ニ屬ス
 ヘク若シ他人ノ物料タレハ吾私有ニ歸スヘキ
 者ハ勤勞ノ賃銀ニ過キスシテ其物品ハ即チ物
 料ヲ出シ且此賃銀ヲ拂ヒタル者ニ歸スヘシ是
 ニ於テ一點ノ疑ヲ容ルヘキ件ナシトイヘ此
 原物ヲ私有セル權利ハ何レヨリ來ルヤ是亦勤
 勞ヨリ出ルニ外ナラス蓋シ草昧ノ時ニ方リ不
 毛ノ土地ニ在テハ凡ソ物料タルモノ毫モ價格
 ヲ有タズ即チ此物價ハ隱伏シテ尚顯レヌ故ニ

人未タ私有權ノ何物タルヲ知ラサルナリ是ニ
 由テ之ヲ觀レハ人ノ私有權ヲ重スルハ其多少
 人ノ所用ニ屬スヘキ功用ヲ含蓄スルノ時ニ非
 レハ了解セサルナリ故ニ人知益開レハ私有權
 モ亦益貴重ナルハシ是レ世界文明諸國ニ於テ
 滿空大氣ノ外ハ一物トシテ人ノ所有タラサル
 者ナキ所以ナリ彼ノ地中ニ埋伏シタル財寶若
 クハ鑛脈ノ如キ所有主無キ物品ヲ偶然發見ス
 ルニアラハ其誰レニ屬スヘキヤ如何ハ國法ノ
 審斷スル所ニシテ發見人モ亦之ヲ恣ニスルコ

ヲ得ス發見人ノ外苟モ其一部分ニ就キ此私有
權ヲ有スル者出ツル時ハ審判上ニテ之ヲ分割
スル者トス此主義タル確的明瞭ニシテ毫モ其
間ニ疑ヲ容ルベカラサルナリ
事物ノ發明創成ニ就テモ亦然ルヤ否ヤ凡ソ發
明創成ハ人ノ故有ナル心智ノ活動ニシテ之ヲ
實用ニ施シタル新思考ナリ、諸思考ト實物トハ
全ク相異ナリ例ヘハ我土地ヨリ採收シタル亞
麻ト我手ヲ以テ造リタル糸ト麻布トハ復タ決
シテ新國ニ移住シタル人ガ縱マ、ニ採收スル

ヲ得ヘキ野生亞麻ノ莖トハ為ラサルナリ其ノ
全ク破損スルニ至ルマテ自己ノ所有物タル性
質ヲ保存セリ然ルニ爰ニ亞麻ノ葉ヲ分ツテ之
ヲ利用スルノ思考ヲ發明シタル人アラシニ此
際他人モ亦之ト全ク同一ノ思考ヲ發明スル
アラシニ此時ニ當リ後ノ發明者ニハ全ク此思考
ヲ實施スルノ權利ヲ禁シ而シテ紡績ト織物ト
ノ思考ヲシテ獨リ前ノ發明者并ニ其相續人ニ
ノミ專有セシメテ可ナシカ余ハ此織機ノ機
關ニ改良ヲ加ヘテ更ニ一層ノ完全ヲ致セリ此

時ニ當リ余ハ獨リ改良ヲ加フルノ思考ヲ專有
シテ可ナランカ蓋シ他人若シ余カ承諾ヲ受ケ
スシテ余カ造出シタル麻布ヲ取ラハ彼ニ被ム
ラシムルニ盜賊ノ名ヲ以テストイヘ氏織物ヲ
造出スル思考ハ毫モ專有スルヲ能ハサルナリ
何トナレハ余獨リ之ヲ專ニシテ他人ニ禁スレ
ハ人智發達ノ自由ヲ防遏シテ他人ノ權利ヲ收
奪スルニ至レハナリ夫レ心智ノ域内ニ於ル所
有權ヲ誤用スルヲ實物所有權ノ因テ起ル基
本ナル人生自主自由權ノ得テ許サザル所ナリ

之ヲ要スルニ凡ソ事物ハ發明工夫ハ完全ニシ
テ且他人ハ得テ犯ス可テガハ私有物タラサル
ナリ
然ルニ事物發明工夫ノ社會ニ向テ布及スル功
効ノ廣大無量ナルハ得テ測リ知ルヘカラス凡
ソ生産上ニ心智ヲ用ヒ覃思研究シテ最モ其分
ヲ盡スハ特ニ發明創成ノカニ非ヌシテ何ソヤ
（工藝教育ノ處ヲ参考セヨ）又今日我カ學術上ノ
知識ト我工作上ノ府庫ヲ成スモノハ發明創成
ノ累々相積テ成レルモノナリ茲ニ人アリ新工

夫ヲ以テ物ヲ造出セハ其中ニハ之カ功効ニ出ル部分最モ多カルヘシ此部分ハ幾多ナルヤ蓋シ暫時ハ報酬ト比例上ハ報酬ト等シク公平ニ結合セル者タルヘシ凡ソ發明工夫ハ永久ノ所有權ヲ有ツヘキ性質ノ者タラス故ニ一ヲ暫時ノ報酬ト謂フ又世ニ實益ヲ生シタルカ故ニ其給料ヲ拂フノ理ニ基ツキ一ヲ比例上ノ報酬ト謂フナリ

且吾人曰ク他人モ亦同一ノ新工夫ヲ爲スナラシ或ハ曰ク果シテ必ス之ヲ為スヘシ何トナレ

ハ凡ソ何等ノ發明新工夫トイヘ氏彼ノミ子ル

グノ四肢ガジピトルノ腦髓ヨリ出テタルガ如

ク(葉)是皆古神學上ノ神ナリ傳ヒ云フミ子ルグ

髓中ヨリハ學術ヲ司ドル女神ニシテジピトルノ神ノ腦

出タリト突然トシテ其人ノ腦髓ヨリ顯出シタ

ル一時ノ創造物タラス業ニ已ニ古人ノ積ミ累

ネタル思考上ニ僅ニ一滴ノ新思考ヲ添加シテ

大成シタル者ナリ故ニ其成就シタル者ハ宛モ

文明開化ヲ堆積シタル山上ノ一砂粒ノ如ク極

高ノ處ニ在ル所以ハ是レ既ニ先人ノ堆積シタ

ル砂礫アリテ之ヲ支フルガユエナリ夫ノ織機

ノ如キハ近今ノ發明ニ由リ大ニ改良ヲ加ヘテ
 其功用ヲ倍蓰シタレ^レ其創成者ハザカル^{佛國}
 ナリ然^レ其淵源ヲ開キタル者ハ遠ク^人ウイ
 ヲウコンゾン及ヒ^人ハルコン等ナリウオウコ
 ンゾンハ斯ナル工巧ナル機械家タリシガ其器
 械學ノ基礎ヲ立ルニハ三千年間ニ輩出シタル
 先哲ノ思考ヲ累ネテ成リタルモノナリ而シテ
 ヲウ^人ルギ及ヒ^人ハルコンガ斯ク巧ニ織機ヲ使用シタ
 レ^レ其原ヲ尋レハ歷然トシテ太古埃及人ノ古
 蹟ニ顯ハス年代ヨリ一千八百年代間其完全ノ

日ニ至ルマテ漸々許多ノ技術家カ其功勞ヲ積
 ミタルカユヘナリ此ノ如ク千百ノ歲月ヲ累ネ
 テ完全ヲ致シタル學術トイヘ^レ之ニ由テ製作
 ノ費用ヲ減スルカ若クハ更ニ善美ノ物質ヲ造
 出シテ即時ニ世人ノ使用ニ供スルニ非レハ敢
 テ工業上ニ適用スルヲ得サルナリ(前節心智ノ
 本分ヲ參考スヘシ)斯ク之ヲ實用ニ施スノ功績
 ヲ博スル者ハ明日出ツベキカ將タ三十年後若
 クハ其以後ニ在ル可キヤ測リ知ルヘカラス若
 シ製作上ニ完全ノ功ヲ奏シ即時ニ世人ノ使用

ニ供スル者アルキハ之カ為ニ先世人々ノ累ネ
タル功勞ハ全ク其人ノ損失ニ屬ス誠ニ惜ム可
シトナス是故ニ一國社會ハ斯、ル思考ニ向テ
須ラク給料ヲ附與シテ之ヲ獎勵スルニ如カズ
何トナレハ社會ヨリ此報酬ヲ為サ、レハ其首
唱者ハ大ニ費用ヲ要シ而シテ多年講究探討ノ
功ヲ積ムト雖モ毫モ其報償ヲ得ルノ目的ナク
中途ニシテ氣カヲ挫クベク良シヤ其發明ヲ大
成スルモ之ニ盡カセザル他人直ニ之ニ倣ヒテ
其工業ヲ起シ以テ之ト競争スルキハ首唱者ニ

於テ毫モ發明報酬ヲ得難ケレハナリ故ニ實用
ニ施スヲ得ヘキ形狀ニ我思考ヲ生出シタル發
明者ノ爲ニ暫時ノ報酬トシテ之ニ私有權ヲ付
與スルハ首唱者タル權利ヨリ出テ、須ラク當
然ノ理ナルヘシ

尚世益ヲ生レタルカ為ニ與フヘキ報酬ハ如何
ナル比例ニ由テ之ヲ定ムヘキヤ其良法ハ一思
考ヲ大成シタル者ニ其一定ノ年月ノ間獨リ其
所得ヲ專有セシムルニ在リ其思考惡キカ若ク
ハ用ニ適ヤサレハ利益ハ烏有ニ屬セルナルヘ

シ果シテ世ニ有益ナレハ創成者ノ利潤ハ測リ
知ルヘカラズ社會ハ固ヨリ彼此ト之ヲ許フル
ノ理ナシ何トナレハ之カ爲ニ社會モ利益ヲ得
タルカユヘニ之ニ報フルハ當然ノ理ニシテ其
創造物ヲ購フト否トハ各人ノ隨意ニ在リ若シ
衆人逼リテ之ヲ購求スル如キハ是レ則チ以前
市場ニテ購求シタル同種ノ物品ヨリ之ヲ購フ
ノ利アルヲ見ルカ故ナリ
此暫時ニシテ且比例上ノ報酬ハ新發明免許條
例ニ由テ確定スル所ニシテ近世ニ至ルマテ此

制法ハ人ノ未タ知ラサル所ナリ何トナレハ上
古工業ハ極メテ少ク又中世ニ在リテハ總テ多
人ノ協同セル會社ノ研究スル所ニシテ一人一
個ノ敢テ企テ起スヲ能ハザル所ナレハナリ此
發明免許條例ハ各工業カ政府ノ束縛ヲ脱シテ
各人ノ自由ニ従事スルヲ得ルニ至リタル時ト
同時ニ創設スル者ナリ一千七百年代及ヒ一千
八百年代ニ方ツテ尚此免許ハ國王ヨリ下賜セ
ル特典ト相混セリ佛國ニ於テ工業上ノ發明工
夫ヲ爲シタル者ニ就キ權賣權ハ最モ久キ者ヲ

十五年間ト為レ之ヲ付與スルノ主義ヲ以テ始
 テ其免許條例ヲ布告シタルハ一千七百九十
 一年ニ在リ而シテ今日實行スル者ハ一千八百
 十四年六月布告シタル改正條例ニレテ即チ政
 府ハ何等ノ發明人ニ向テモ唯首唱者タル請求
 ヲ證認スルノミニシテ其實果シテ其請求ニ違
 ハサルヤ如何ト其發明ハ必ス真正ナルト否ト
 ハ敢テ保證セサルモノトレ且年々一百フラン
 クヰツ、ノ免許料ヲ拂フノ規則ヲ設テ貧困ノ發
 明人モ容易ニ權賣免許ノ特權ヲ得ルノ方便ヲ

得セシメタリ

工業上新發明ノ多種中ニハ織物類ニ附ニタル
 新模様アリ然レ氏佛國ニ於テハ一千八百〇六
 年三月十八日ノ布告ニ由リ之カ爲ニ特別ノ律
 法ヲ制定セリ其條例ニ由レハ凡ソ此等ノ新工
 夫ヲ為シタル者ニテ其雛形ヲ最初ニ「コンセル
 デプリフトム」(職工ト製造主トノ間ノ爭論ヲ勸解
 スル一種ノ裁判所)ニ出シタル者ニハ完全ナル
 私有權ヲ准可セルモノトセリ意ヲニ國法上單
 一ノ模様及ヒ模範ヲ工夫シタル者ニ附與スル

ニ工業上某ノ發明者ニ認許セルヨリ優等ナル
 權利ヲ以スルハ大ニ事理ニ合ハザルモノ、如
 シ
 製造局ハ標章ハ又之ト性質ヲ異ニス凡ソ此等
 ハ發明工夫トハ謂ヒ難ケレト時トシテハ製造
 者カ其製造品ニ付加シタル標章ヲ以テ市場賣
 買上衆人ノ信ヲ得テ購求スル者多キニ由リ特
 ニ其價ヲ増ス者アリ是レ全ク一人一個ノ固有
 ニ屬スル者ニシテ即チ之ヲ專賣シテ可ナリ故
 ニ某人ノ製造品ノ標章ハ固ヨリ他人ノ自由ニ

スルヲ得ガル者ナリ苟モ之ヲ取テ我製造品ニ
 付與スルキハ是即チ私カニ他人ノ名譽ヲ僭奪
 シタル者ナリ是故ニ佛國ニ於テハ又一千八百
 五十七年ノ布告ヲ以テ令ヲ下シテ曰ク凡ソ製
 造局ハ標章ニシテ商法裁判所ニ其雛形ヲ出シ
 タル者ニハ悉ク特別ハ私有權ヲ准可保證スト
 而シテ私有權ノ此種類ヲ保存スル利益アルハ
 固ヨリ長久ニ非ルヲ以テ故ニ政府ノ保證ヲ繼
 續スルカ為ニ一例ヲ設ケ凡テ每十五年ニ其保
 證ヲ新タニスルヲ要スルモノト定メタリ

457(3)

新經濟論

卷三

工業篇上

農工商經濟論卷之三 工業篇上

